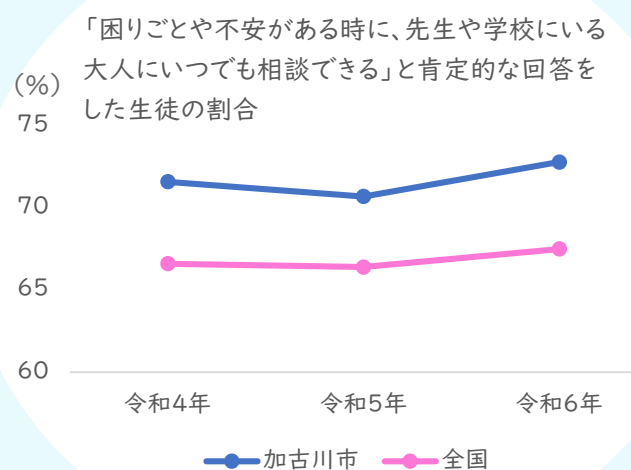
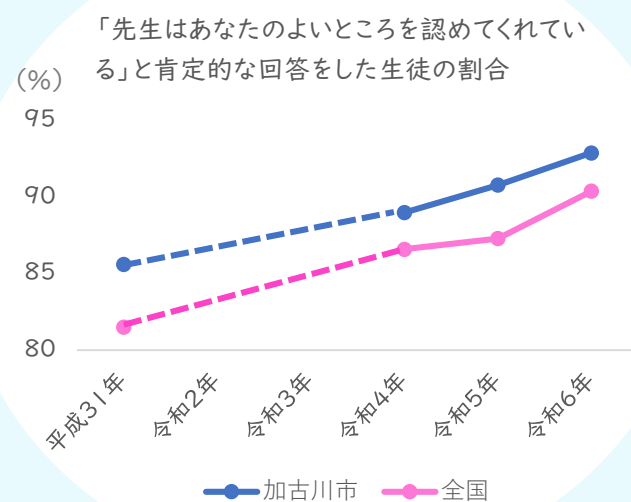
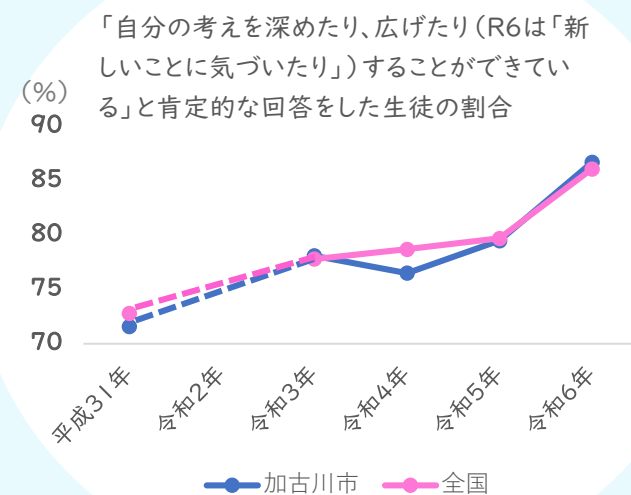


調査の経年変化から見た成果



※点線部分は質問紙調査で項目のなかった年です

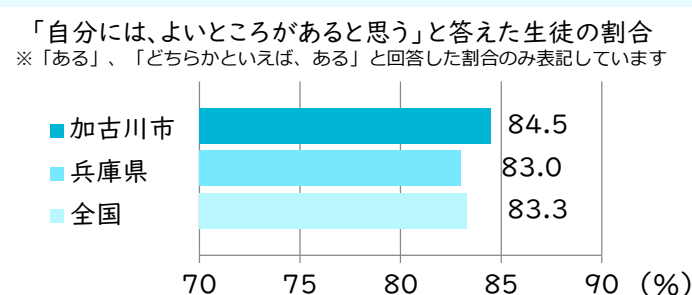
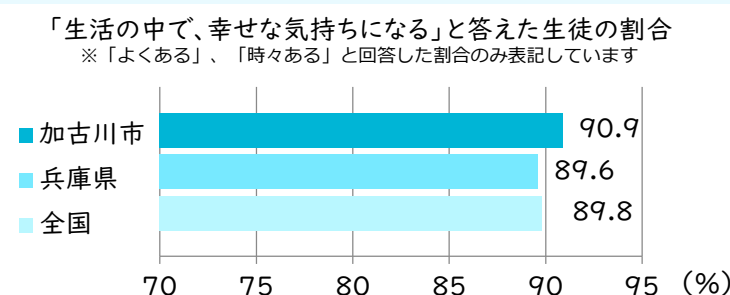
- ・「話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、広げたり(R6は「新しいことに気づいたり」)することができている」と肯定的な回答をした生徒の割合は、平成31年度から増加しています。
- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と肯定的な回答をした生徒の割合は、平成31年度から増加しています。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と肯定的な回答をした生徒の割合は、令和4年度と比べて増加しています。

「協同的探究学習」が育む子どもの「わかる学力」と「自己肯定感」

「協同的探究学習」とは、いろいろな考えが可能な問題に対して、一人一人の子どもが自分なりの考えを書き、クラスで考えをつなげて深める学習です。

これからの時代には、自分で様々な知識を関連づけながら考え、他者と考えを共有し、ものごとの本質を理解していく「**わかる学力**」や自分のよいところを認める「**自己肯定感**」が重要になります。

協同的探究学習により、一人一人の「わかる学力」や「自己肯定感」が育ち、これからの人生を歩んでいくうえで大切な**ウェルビーイング(幸福度)**も高まります。



加古川市教育委員会は、子どもたちの未来を切り拓く力を育むために「未来を拓く学び推進事業」に取り組んでいます。

加古川市教育委員会

〒675-8501 加古川市加古川町北在家2000



←未来を拓く
学び推進事
業について



←全国学力・
学習状況調
査について
(概要)

保護者のみなさんとともに考える

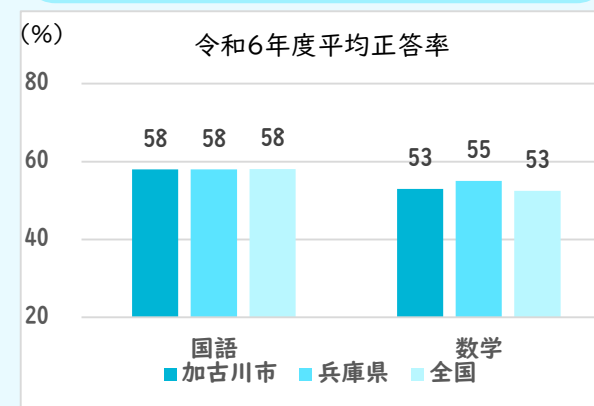
加古川市の学力・学習状況(中学校)

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果より

※中学校には義務教育学校
後期課程を含みます



加古川市の子どもたち



教科に関する調査結果

- ・兵庫県や全国平均と比較すると同程度でした。
- ・国語・数学とも、短答式問題に成果が見られました。しかし、記述式問題に課題が見られました。

生活に関する調査結果

- ・自己肯定感の高い生徒が多いことがわかりました。
- ・学校生活に満足している生徒が多いことがわかりました。
- ・地域や社会をよくしたいと考えている生徒が多いことがわかりました。

友だち関係に

満足している

93.3%

(全国90.1%)

先生はあなたの

よいところを
認めてくれている

92.9%

(全国90.4%)

自分には

よいところがある

84.5%

(全国83.3%)

学校に行く

のは楽しい

87.6%

(全国83.8%)

地域や社会を

よくするために
何かしてみたい

78.7%

(全国76.1%)

生徒質問紙で肯定的に
回答した割合の高い設問より

掲載している内容は、学力や学習状況の一部であることを踏まえつつ、今回の結果をもとに、授業改善や家庭との連携のあり方について考えるきっかけとして活用し、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図っていきたいと考えています。

調査結果から見た成果と課題

国語

自分の考えが伝わるように表現を工夫しよう

中学校⇒
国語問題



【言語事項】

文脈に即して、漢字を正しく書くことができています。

大問3三 漢字を正しく書く問題

問題

みちたりた → 満ち足りた

【正答率】

73.9%
(全国68.8%)

【書くこと】

自分の考えが伝わる文章になるよう表現の効果を考えて書くことに課題があります。

大問3四 紙の辞書を登場人物とした物語の結末を、4場面を読み、「次の出番への期待」という心情が伝わるように文章にして書く問題

【正答率】

44.9%
(全国49.3%)

(ア)に物語の結末は書いていますが、(イ)に表現を工夫したことの効果(下線部)について、書くことができていません。

ア:僕はまた本棚にしまわれた。でも、今度は君と近い距離。また使われる日を待っている。
イ:久しぶりに使ったよさに「君」が気付く、「僕」を近くに置いてくれたことを表現した。

【イ:改善案】⇒「僕」と「君」の距離が近づいたことを表現することで、次の出番への期待がより現実的なものとして高まっていることを表した。

誤答例は、フィルターバブル現象の特徴を取り上げて、書いていません。必要な条件を考えて書きましょう。

【話すこと・聞くこと】

話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることに課題があります。

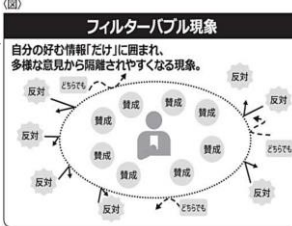
大問I四 「フィルターバブル現象」に関する生徒の話し合いから、どのような考えを述べるかを記述する問題

条件1

フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと

条件2

【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのか分かるように書くこと



藤田さん

私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。

今井さん

たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは思いませんでしたか。

正答例

今井さんが言うように、フィルターバブルには好みに合った本を選んで示してくれるという便利な面もあるし、それ以外の本に出合いにくくなることもあるので、本を選ぶときには、インターネットと図書館などを使い分けたいと思います。

誤答例②

山岡さんが話してくれた、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用して本を選んでみたいと思いました。

※文科省ウェブページによる。一部改変。

【正答率】

40.7%
(全国44.7%)

数学

根拠や理由を明確にして説明しよう

中学校⇒
数学問題



【数と式】

きまりからどのように問うのか考え、正の数と負の数の加法を計算することができています。

大問6 (1) 図の□に入る整数を求める問題

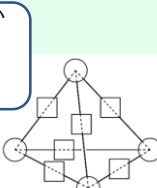
【正答】

-2 (2頂点○の和)

【正答率】

91.4%
(全国 90.2%)

正三角形で用いたきまりをもとに発展させて考えることができる



【数と式】

問題の条件を変えて何が見いだせるかを統合的・発展的に考え、成り立つ事象を見だし、説明することに課題があります。

大問6 (3) 正四面体の各頂点に○を、辺に□を書いた図において○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する問題

【正答例】

・□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の3倍になる。
・○に入る整数の和は、□に入れた整数の和の1/3になる。

【正答率】

39.4%
(全国 41.8%)

正三角形を正四面体に変えた場合に成り立つ事柄を考えるには、具体的な数字を入れて考えることから始めて、そこからきまりについて考えてみましょう。どうしてそのきまりになるかを考えるとさらに深まりますね。

【データの活用】

データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。

大問7 (2)

車型ロボットについて、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する問題

【正答例】

速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっている。(正答の条件) 次の(a)又は(b)について記述しているもの。
(a)箱ひげ図の箱がだんだんと右側にずれていっていること。
(b)第1四分位数と第3四分位数がだんだんと大きくなっていること。

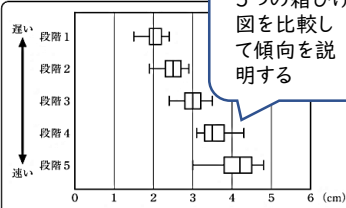
【正答率】

23.2%
(全国 25.9%)

【誤答例】

・段階1と段階5を比べると約2倍の差がある。
・段階が遅いと箱ひげ図は3cmよりも後ろにあるが、段階が遅いと前にかたまっている。

10cmの位置から進んだ距離の分布



	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
段階2	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
段階3	2.4	2.8	3.0	3.2	3.5
段階4	3.1	3.3	3.5	3.8	4.3
段階5	3.0	3.8	4.2	4.5	4.8

※文科省ウェブページによる。一部改変。

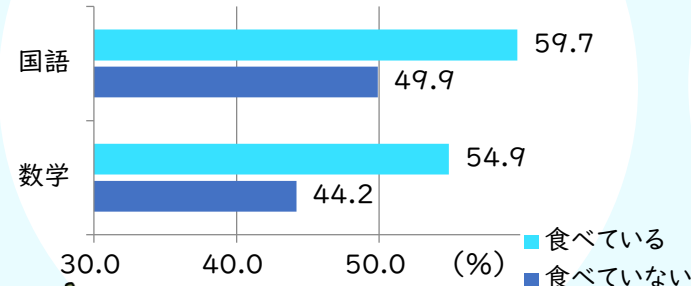
学力と生活習慣

ご家庭においても、お子さんの頑張りを認め、これからご家庭でできることについて話し合ってみてください。

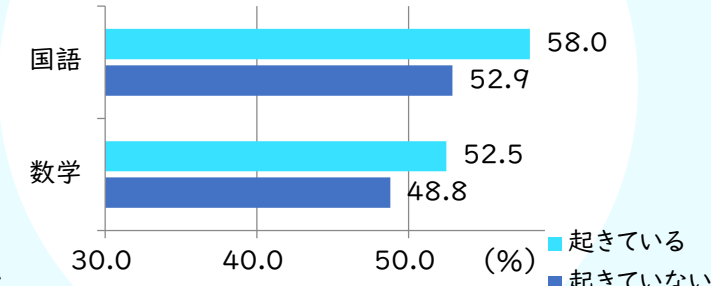


生活のリズムを見直そう

○朝食を「毎日食べている/全く食べていない」と答えた生徒の正答率



○毎日、同じくらいの時刻に「起きている/起きている」と答えた生徒の正答率

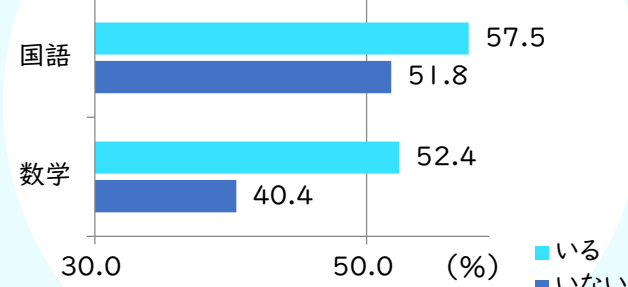


加古川市食育マスコット
もぐビー

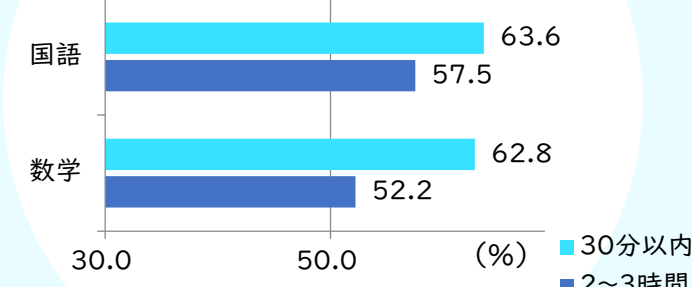
毎日、朝食を食べている生徒や、同じくらいの時刻に起きている生徒ほど、正答率が高い傾向が見られました。睡眠や食事を通じて生活のリズムを整えることが、体や心を健康に保ち、確かな学力を高めることにもつながります。

家族との会話を大切にしよう

○友だち関係に満足しているか」の質問に「いる/いない」と答えた生徒の正答率



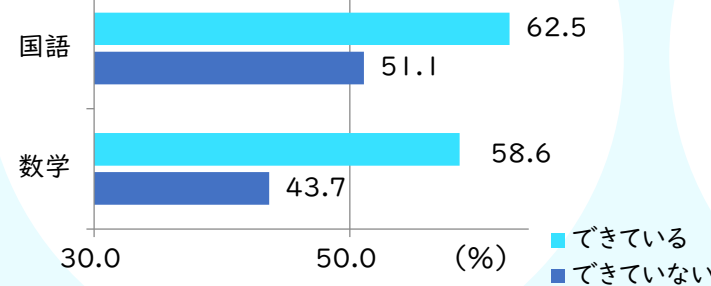
○「普段一日あたりどのくらいの時間、携帯電話等でSNSや動画視聴をしますか」の質問に30分以内、または2～3時間と答えた生徒の正答率



友だち関係に満足している生徒や、SNS・動画視聴時間を一定時間にしている生徒ほど、正答率が高い傾向が見られました。学校での出来事や友だち関係、スマートフォンの使い方などのご家庭のルールについて、家族で会話をすることが大切です。その中で、大人は子どもの話に興味・関心をもちながら耳を傾け受け止めるなど、傾聴と共感を心がけ、よい聞き手になることが大切です。

自分で目標を決め、学習を計画的に進めましょう

○授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、活かしたりすることが「できている/できていない」と答えた生徒の正答率



○いつでも積極的に読書ができるように、電子図書館に児童用電子書籍(読み放題)を導入しています。

利用者IDとパスワードは子どもたちが持っていますので、ぜひ家庭でもご覧ください。



児童用電子書籍
(読み放題)



加古川市まちなか魅力発信
キャラクター
かこのちゃん

授業で学んだことを活かそうとしている生徒ほど、正答率が高い傾向が見られました。毎日少しずつでも学習のふりかえりに取り組むことが大切です。家族や友だちと、疑問に思ったことや気づいたことなどを話し合ってみましょう。また、図書館を利用したり、親子で同じ本を読んで感想を伝え合ったりすることもよい取組です。